令和5年度〔 自己評価報告書 〕

学校番号	学 校 名	校 長 名
11	川崎市立川崎高等学校附属中学校	西　道 生

学 校 教 育 目 標	今年度の重点目標
こころ豊かな人になろう ○　自分の良さを伸ばそう ○　知識を求め、追究しよう ○　思いやる心をもとう ○　心身ともに鍛えよう	1. 心を耕す教育を推進する。 2. 主体性を育む教育を推進する。 3. 広い視野を育む教育を推進する。 4. 探究心を育む教育を推進する。 5. 健康を尊ぶ教育を推進する。 6. 特色ある取組を一層推進する。

評 価 項 目		具 体 的 な 取 組	成 果 と 課 題	具 体 的 な 改 善 策
1	学校経営	○心を耕す教育の推進 ○生徒主体の学校づくり ○支援教育の充実 ○分掌組織機能の強化	・様々な教育活動の中で、生徒主体の取組を通して、生徒同士のよりよい関係作りを図り、生徒の健全な成長を支えるように意識して取り組んだ。生徒によっては、まだ主体性が十分に育まれていない現状もあり今後の課題としたい。 ・支援教育の充実を柱とし、生徒一人一人が安心して登校できるよう支援教育コーディネーターを中心とした指導体制を強化するとともに、個に応じたきめ細やかな対応を行った。 ・分掌組織が改変されて3年目となり、教職員の主体性がより発揮されてきていると感じる。	・本校の教育活動の中心であるLEADプロジェクトを今後も一層充実させながら、生徒一人一人の主体性を伸ばしていきたい。学校評価アンケートからも、生徒の積極性をより高めていくことが期待されており、生徒の意見やアイデアを十分に活用するなど、活動内容や取組の仕方について、活動の主役である生徒とともに考え、指導方法を工夫していきたい。
2	教育課程	○中高一貫の特色を生かした編成 ○アフター・コロナの状況の中での適切な対応	・総合的な学習の時間を中心に、中高一貫教育のメリットを生かした取組ができた。中学校の学習や取組をベースにして、高校における探究的な学習の時間が行われ、生徒の課題解決力や表現力などを確実に高めることができている。一方で全体の教育課程編成については、今後に向けて前向きに議論を進める必要性もある。 ・5月に新型コロナウィルス感染症が5類に移行したことに伴い、本校で大切にされてきた多くの体験・探求活動をほぼ制限なく以前のように充実して実践することができた。	・高校において在県外国人募集など新たな事業が進められる中、中高一貫教育校としてのより効果的な教育課程の編成については、まだ十分に深められていない部分もある。中高の連携を大切にしながら今後も継続して取り組んでいきたい。今年度も東京都立小石川中等教育学校の実践を参観させていただき、とても有意義であった。今後もその他多くの中高一貫教育校の実践を体感させていただきながら、自校の教育活動に生かすべく、学んでいきたい。
3	学習指導	○生徒が主体となる「わくわくがとまらない」授業の推進 ○生徒一人一人の学びの保障 ○生徒の興味・関心の喚起 ○学びのユニバーサルデザイン（UDL)の視点を生かした授業実践	・R4、R5年度国語科の市研究推進校としての主題を中心に「学びのユニバーサルデザインの視点を生かした授業の研究」をすべての教科や領域で意識しながら学習活動に取り組んだ。 ・今年度も、夏季休業中に行う学習会に加え、生徒の多様な学びに応えるため、「わくわく学園」を複数の教科で実施。博物館めぐり、大使館訪問など、教員の計画に沿って希望者を募り、生徒の関心、意欲を高める有意義な学習を行うことができた。 ・生徒の困り感や特性に応じて、ケース会議を通して学習支援の方法を検討し、全職員で共有して対応することができた。 ・進路学習について、中高とも連携を大切にしながら、「社会的自立に必要な資質・能力」と「高校卒業後の直近の進路指導」遠近両用、バランスのとれた指導について一層工夫していく必要がある。	・今後も引き続き、中高教科会や中高管理職合同会議などを計画的に実施し、生徒の学習に関する実態把握や効果的な指導の在り方について研究を進めていく。 ・e-ラーニングの活用について、効果的な方法や教員間での共通理解について検討する必要があり、時間を確保し取り組んでいきたい。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指すことに対する教員の意識は高まっている。「個別最適な学び」に通ずるUDLの視点を生かした授業の在り方について、今後も意識して取り組んでいきたい。
4	生徒指導	○基本的な生活習慣の確立 ○一人一人の困り感に寄り添うかかわり ○家庭及び外部機関等との連携	・生徒間トラブルは多くないものの、家庭を背景にした問題や個人の心の問題、小学校の成功体験からの挫折、コミュニケーション力の不足、発達課題等、個別の対応が多く、それに対して一人一人に寄り添った丁寧なかかわりを重視して取り組むことができた。必要に応じて児童相談所やSSW、区役所みまもり支援センター等の関係機関と連携を図り、一つ一つ解決しながら進めることができた。 ・学級に入ることができない生徒のために、二次的支援として登校支援教室「ぽっかぽか」を3年前に開設し、全職員で連携を図りながら支援にあたってきた。全職員による丁寧な関りもあり、学級に復帰できる生徒も増えてきている。 ・支援教育コーディネーターを中心に、学年主任、生徒指導担当、養護教諭、スクールカウンセラー、管理職による定例会議を実施し、困難を抱える生徒一人一人の支援について協議し、全職員の共通理解の下、支援にあたることができた。 ・多様な生徒に対応するため、今後も教員の「チームとしての指導力と情報共有スキル向上」図っていきたい。	・本校の現状から考え、今後も支援教育コーディネーターを中心に、学年主任、生徒指導担当、養護教諭、スクールカウンセラーとの連携を強化し、情報共有と指導の方向性の共有を図っていく。 ・必要に応じて、学級担任等、指導・支援に関係する教職員等を加えてケース会議を行い、支援方針を定めたうえで、具体的な支援計画の立案や方法等について検討する。
5	特別活動	○生徒主体の活動を通した集団づくり ○望ましい集団活動を通した自己理解・他者理解・人間関係づくり	・一昨年度より特別活動を担当する組織を「特活支援部」として独立させた。これにより、生徒の主体的活動の推進の意識を高めることができた。今後もより実践を重視し、生徒に確かな力を育みたい。 ・様々な活動のねらいや目的を、教員だけでなく、生徒と共に考えることも大切であるが、現状としてそのための時間を生み出すことが難しい面がある。	・民主的な活動の推進と行事等を成功させるマネジメント力を高めるため、様々な場面でより意識的に「議論したり、話し合う機会」を作っていきたい。それにより折り合いをつけたり、合意形成をしていく資質を育んでいきたい。

6	健康安全管理	○健康で安全に過ごすための意識向上	・日常的な声かけや、好機をとらえた指導を行い、健康や安全に関する生徒の意識向上に努めた。 ・健康推進部を一昨年度から立ち上げたが、保健委員会と検討しながら、生徒の体力や運動習慣の状況などのデータを基に、健康増進、活気ある学校づくりに資する取組を適宜行った。 ・市内全域が学区という特殊な環境のもと、「防災」について、今後より深めていく必要性を感じる。	・ほけんだより等の発行により、本校の実態を踏まえた健康や安全に関する情報を提供し、一人一人の意識の向上を図る。 ・健康推進部として生徒組織を使いながら、今後も本校の課題を整理し、その課題に応じた手立てや指導を検討していきたい。 ・「防災」への意識をより高めるため、市教委（健康教育課など）と連携し、取組を進めていく。
7	特色ある取組	○本校の教育の柱「体験・探究」の推進 ○本校の教育の柱「英語・国際理解」の推進 ○本校の教育の柱「ICT活用」の推進 ○中高の系統的な学びの推進 ○他の教育関係機関等との連携による学びの充実	・本校の特色について生徒、保護者、教職員はよく理解しているため、意識を持って取り組むことができた。 ・国際理解教育を推進するために、博報堂教育財団と連携して、海外で日本語を学ぶ外国人中学生との交流を企画することができた。今年度は、様々な国の子どもたちと直接交流し、ホームステイなどを実施、多様性について学びを深める体験を多く行うことができた。 ・グローバル社会で必要なツールとなる英語力を一層高めるため、昨年度から3年生でEnglish Adventureを実施、充実した活動となっている。また毎年全学年で行っているEnglish Challengeについても、内容をより工夫しながら実施。生徒一人一人にとって貴重な発表の場となった。 ・中高の系統的な学びについて、中高の教職員が協力しながら、今後もを追究する時間をつくっていきたい。	・今年度、キャリア在り方生き方教育の市研究推進校となり、本校の特色であるLEAD学習（総合的な学習の時間）の在り方のより効果的な推進について深める機会を持つことができた。LEAD学習については、今後もPDCAサイクルを機能させながら、充実させていきたい。また、今後は、横断的な学習によるカリキュラム編成などについても研究を進めていきたい。
8	地域・家庭連携	○学校公開等による情報発信 ○面談等の活用による関係の構築 ○地域貢献活動の創造と推進	・アフターコロナの状況を迎え、今年度は昨年以上に、できるだけ多く保護者の方に来校していただく機会を持った。その結果、学校に対する理解もより深まっていただけたと感じている。このテ点については、学校評価アンケートでも評価していただいており有難く感じている。 ・生徒会の自主的な企画で、自然災害被災地への募金や支援活動を呼びかけ、多くの生徒が積極的に協力することができた。今後も社会状況に応じた、様々な取組を考えていきたい。 ・小学生の体験授業や学校見学などを計画的に実施できた。学校説明会でも、生徒が主体となった説明を実施することができ、その結果、本年度も多くの志願者に受検していただくことができた。	・生徒会を中心に、今後も可能な範囲でより意欲的に地域貢献活動を行っていきたい。 ・学校見学会を実施したりするなど、今後も市内唯一の公立中高一貫教育校の魅力を地域市民に発信するとともに、本校の良さを理解してもらうように努める。
9	情報公開・広報	○ホームページの積極的活用 ○学校だより等の改善	・広報部のメンバーを中心に、意欲的に取り組み、新しくデザインして作成された学校だよりは、今年度も保護者に好評であった。一方で、更新の度合いなども含めて、ホームページについては、改善を進めていく必要があると感じる。 ・学校説明会において、生徒が主体となって説明をしたり、内容について工夫し、より積極的な情報発信に努めた。	・広報部の業務は活性化してきているが、ホームページについては、まだ十分に改善が進んでいない部分もあり、今後の課題としたい。 ・市内の小学生とその保護者、教育関係者等に向けて、本校について関心を持ってもらえるような新たな取組について検討していきたい。
10	その他	○働き方改革の推進 ○学び合う教職員集団の育成 ○創立10周年記念式典の円滑な実施	・ノー部活デーの導入や定期テスト採点業務時間の確保、会議の縮小など、教職員の負担を軽減する取組を今年度も行った。 ・入学者決定に係る業務など、他校にはない業務が多いので、指導課等とも調整しながら、今後も業務の一層の効率化を図っていきたい。 ・今年度もOJT研修を計画的に行い、互いの経験や実績、研修の成果を基に学び会う機会を設けた。 ・10周年記念事業に向けて計画的、協力的に準備を進めた。実行委員会を中心に、教職員・PTA、生徒組織等が密に連携しながら、当日を迎え、無事・成功裏に式典を挙行することができた。記念事業の企画、式の進行など、生徒がプレゼンした内容を生かし、生徒が主体となって執り行うことができた。	・教務と調整しながら、教職員の負担軽減につながる業務の見直し、時間の確保または削減など、一層の努力を続けていく。 ・今後も教職員一人一人の専門性や特技等を生かしたOJT研修を行うことで、同僚性の構築や互いの理解を深めることにつながる機会を設ける。 ・10周年記念式典に向けて、生徒を前面に出して取り組むことで、生徒に達成感や自信をつけさせ、学校に対する誇りをもてるよう指導・支援にあたることができた。今後また、横と縦の連携を図りながら、「次の10年に向けて」前向きに学校教育活動を推進していきたい。

学 校 関 係 者 の評 価	学校運営のまとめ
学校の教育理念や特色ある教育活動等については、保護者からもよく理解されており、肯定的に受け止められている。先行き不透明な社会状況のもと、自立に必要な資質・能力を育んでいくために、今後もさらによりよい教育活動を創造していってほしい。「わくわく学園」「English Adventure」や博報堂教育財団との連携による「日本語交流プログラム」など、生徒の多様で深い学びに応えるべく、年々新たな取組が行われており、これからも一人一人の深い学びの保障のために力を注いでほしい。そして、生徒の真のの学力を高められるよう期待している。学校広報について、今後もさらに工夫しながら、生徒の活躍のようすや学校として発信したい内容など、適切に情報提供をしてほしい。	改編された分掌組織が定着し、職員が自分たちで考え、主体性を発揮してきたことで、新たな取組を生み出すこともでき、活気ある学校運営を行うことができている。今年度も引き続き、本校生徒の実態把握に努めながら、様々な教育活動の推進に力を注いできた。12月9日（土）には、開校10周年記念式典を充実した形で挙行することができた。生徒主体の創造的な活動が展開できたことが特に良かった。日常的には、支援教育コーディネーターを中心に、教職員がチームとして、生徒個々の環境や心理状態に寄り添い、丁寧な支援を行うことができ良かった。来年度も、一層生徒の活躍の場を増やすことに注力し、生徒主体の活気ある学校づくりを進めていきたい。また、支援教育の推進についても、さらに意識を高め、引き続き支援教育に関する知識獲得や、生徒との関わり方のスキル向上に向けた研修等を積極的に行っていきたい。